

## 秋田県仙北市田沢湖畔発見の黒曜石原石について (2)

吉川耕太郎\*<sup>1</sup>・佐藤 隆\*<sup>2</sup>

### 1. はじめに

本稿は、仙北市田沢湖畔で発見された黒曜石原石に関する続報である。

一昨年度、田沢湖東岸の春山地区で黒曜石原石が発見されたという報を聞いて現地踏査した当館の大森・吉川らが実際に黒曜石原石を確認した経緯と分布状況等については、本誌第37号に報告したとおりである(吉川ほか2012)。その後も、産地推定分析試料数を確保するために、佐藤・塩野米松・黒田久子らにより、精力的に黒曜石の散布状況の確認と採集が続けられた。

今回はその過程で新たに分かったこと及び別採集地点での黒曜石原石発見について報告する。

### 2. 春山地区の黒曜石産出状況

春山地区で採集された原石はどれも直径10cm内外の円礫である。

前回の報告では、その供給源について、田沢湖底と荷葉岳の相反する2つの可能性を考えた。田沢湖の成因については、第四紀カルデラ説が有力なようであるが(秋田県1991)、不明な点が多い。笹森山は含輝石石英安山岩質火山礫凝灰岩(田沢層)であり(白田ほか1985)、供給源とは考えられず、実際に周辺の踏査を実施したが、確認するには至っていない。

春山地区の砂浜は「白浜」といい、細かな白い砂が湖畔に広がっている美しい場所である。この白砂は、その下層にみられる玉川デイサイト(「溶結凝灰岩」と推測される)層が供給元である。現地においても、この「溶結凝灰岩層」中に含まれるさまざまな岩石・鉱物を波が洗い出しており、その過程で石英の白い砂の堆積が形成されていることが確認できる。

平成24年10月2日、佐藤・黒田らは春山地区を踏査している際に、この「溶結凝灰岩層」から黒曜石が露出している状況を確認した(写真1)。

この「溶結凝灰岩層」の堆積年代は更新世の可

能性が高いが、その後の地層の堆積に被覆されているため供給源を特定するのは困難であり、今後の課題である。

### 3. 大沢地区での黒曜石原石の発見

今回、佐藤が地元の方の話を伺いながら、新たに踏査した場所が田沢湖南岸にある大沢集落に面した湖岸である。春山地区同様、白砂が広がって砂浜を形成しており、所々、泥岩層、凝灰岩層が足元に露出している。波に洗われて残留した石英が白砂となっている状況はここでも確認できる。近年は危険であるため禁止となっているが、かつては湖上スキーで賑わった場所だという。採集地点に東接して標高373.2mの霧森山が、南西方向には標高751.1mの院内嶽が聳える。

大沢集落の方の話によると、春山地区同様、50年ほど前には小学生が黒曜石を拾って遊んでいたという。その遊びは興味深いことに、学校のストーブに黒曜石を投げ入れて発泡させるというものだったようである(註1)。

佐藤・黒田が11月23日に踏査したところ、春山地区とはまったく顔つきの異なった黒曜石が複数採集された。その一報を聞き、吉川が佐藤とともに11月26日に現地踏査した。結果、黒曜石原石を複数個、採集することができた(写真2～5)。

産状は春山地区とまったく同じであるが、当該地区は岩種がほとんど凝灰岩という単一的な様相を示している。なかでも霧森山北西裾部では、大きめの黒曜石を見つけることができた。また、「溶結凝灰岩層」が地面に露出している地点での黒曜石の包含状況は今回、確認できなかった。

### 4. 大沢地区の黒曜石

これまでに発見された黒曜石のサイズは多くが長軸10cm内外である点で春山地区と同じである。しかし、気泡や球顆を多く含む点と、角礫である点で春山のものとは大きく異なる(写真6)。

\*<sup>1</sup> 秋田県立博物館 \*<sup>2</sup> たざわこ芸術村化石館元館長

形態は板状・立方体状・直方体状で、色調は黒色～漆黒色で透明度が高く、飴状の光沢を呈する。また、流理構造がよく発達している。球顆を多く含む光沢を持った石質は肉眼上、神奈川県箱根畑宿産の黒曜石と似ている感がある。

## 5. 考古学的観点からのまとめ

黒曜石は、先史時代の人々にとって石器原料として非常に重宝された。とくに北海道地域や信州の中部高地、九州北西部など大規模な黒曜石原産地のある地域では黒曜石製石器の大量生産や採掘まで行われている。

一方、東北地方では珪質頁岩が主要な石器原料であった。このため旧石器時代や縄文時代の石器群に占める黒曜石の割合は1割に満たないのが一般的といえる。しかし、東北地方には青森県深浦や秋田県男鹿をはじめ、現在約15か所の黒曜石産地が確認されており、それら産地の黒曜石は、後期旧石器時代から古代まで、東日本一帯で石器等の原料として利用されていることがこれまでの産地推定分析から明らかとなっている。

今回新たに確認された大沢地区採集の黒曜石は、春山地区のものと比較して、石質が非常に劣っている。流理構造が発達しているため、層理面によって剥片剥離を上手くコントロールすることが難しく、多く含まれる球顆などの挟雑物も石器製作上の障害となる。実際、秋田県における後期旧石器・縄文時代の黒曜石製石器でこうした質の良くない黒曜石を素材とする事例はほとんどないように思われるが、今後は、「質」の観点も含めて改めて黒曜石製石器を見直していく作業も必要であろう。

なお、田沢湖東岸には縄文時代中期の集落跡である潟前遺跡が所在する。この遺跡からは黒曜石製石鏃等が出土している。周辺遺跡の黒曜石製石器の産地推定分析も今後実施していく必要がある。

縄文時代の田沢湖周辺は湖や川、山の幸に恵まれ、比較的質の良い珪質頁岩も湖岸や近隣で採集できることから、人々にとって自然資源の豊かな場所であったのかもしれない。仮に当時、黒曜石が人々の目に留まったとすれば貴重な地域資源に

なったはずである。こうした問題を解明していくためには、まずは産地推定分析を進めていくことである。

春山地区・大沢地区の黒曜石および潟前遺跡出土の黒曜石製石器は、明治大学黒曜石研究センター猿楽町分室に蛍光X線による産地推定分析およびカリウム-アルゴン法による年代推定分析を依頼する予定である。分析結果については稿を改めて報告する。

## 謝辞

本稿を執筆するにあたり次の方々からご協力・ご指導・ご助言を賜りました。末筆ですが、記して感謝いたします。

黒田久子・五井昭一・塩野米松・杉原重夫・藤本幸雄・三浦久・渡部晟（敬称略）

## 【註】

1：三浦久氏の話による。

## 【参考文献】

- 秋田県 1991『土地分類基本調査田沢湖国土調査』  
秋田県教育委員会 1999『潟前遺跡（第1次）』秋田県文化財調査報告書第290集  
秋田県教育委員会 2000『潟前遺跡（第2次）』秋田県文化財調査報告書第306集  
白田雅郎ほか 1985『秋田県総合地質図幅 田沢湖』秋田県地質調査所 1958年『5万分の1地質図幅説明書 田沢湖』  
吉川耕太郎・渡辺春雄・佐藤隆・五井昭一・塩野米松・黒田久子 2012「秋田県仙北市田沢湖採集の黒曜石原石について」『秋田県立博物館研究報告』第37号

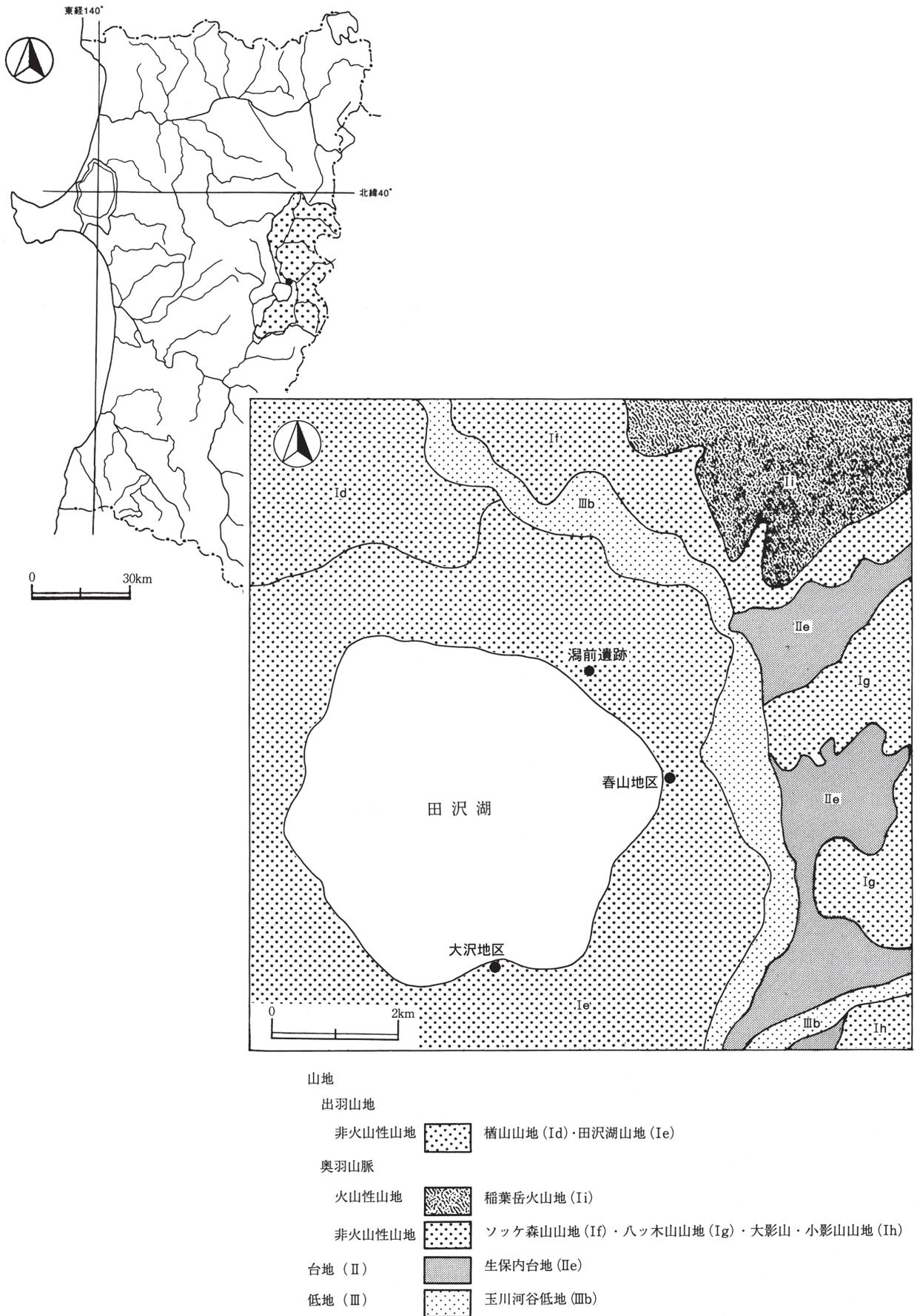


図 田沢湖周辺地形と黒曜石採集地点 (秋田県教委 1999 に加筆)



写真1 溶結凝灰岩中から発見した黒曜石原石



写真2 大沢地区での踏査風景



写真3 発見した黒曜石原石



写真4 水中で見つかった黒曜石原石①



写真5 水中で見つかった黒曜石原石②



写真6 大沢地区の黒曜石